

ひとから真に求められる「心のケア」を考えます

ベトレヘムの風

発行：ベトレヘムの園病院 隔月15日発行 編集：広報委員会
住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号 ☎042-491-2525 URL: <http://www.betohp.com>



No.91

～記念事業は「一点 豪華主義」～

院長 青木 信彦



ベトレヘムの園病院開設85周年記念の催しは平成30年10月24日にしめやかに院内リハビリ室で挙行されました。出席していただいた多くの皆様に心から御礼申し上げます。式典では開設者フロジャック神父様の崇高な理念「生きることは愛すること」が85年後も脈々と受け継がれ、しかも最近の10年は星院長・前村院長の指導に従い黒字経営が達成されていることを天国の神父様に報告させていただきました。現院長としてこれ以上の喜びはありません。

ベトレヘムの園病院は格式高い庭園を中心に取り囲むように設計されています。庭園のメンテナンスに決して少なくない資金を投資していますが、四季を通じて咲き誇る色とりどりの草木は贅の極みを尽し、わたしたちの心がくじけそうになった時、あるいは生きることに行き詰まった時、などなどの困難を吹き飛ばしてくれます。やはり、他の多くの施設にみられる平

凡な庭とは格式の相違のあることが実感されます。

5年前の80周年では記念事業としてモミの木の植樹祭を実行いたしました。このモミの木は5年経ったにははひどく小ぶりですが、枯れることもなく今でも順調に成長を続けています。

今回、85周年記念事業の理念として、「一点 豪華主義」を掲げました。多くの職員の強い要望に応じて、深紅の高級パラソルを庭園中央に設置することに決定しました。入院患者さん、ご家族、職員の憩いのシンボルとなるでしょう。皆様にもぜひとも一度ご覧いただきたく、パラソルの周囲にはカーペットを敷き、座り心地満点の椅子も多数用意いたしました。深紅の高級パラソルの下で安楽な椅子に身を委ね、思いっきり庭園の雰囲気味わっていただきたいと存じます。

最後になりますが、あくまでも高い秋の空の下、「ベトレヘムの園病院開設90周年さらに100周年の到来祈願」を天国のフロジャック神父様へ向けて大声で叫んでみましょう。きっと達成の約束をしていただけるものと信じます。



患者様の呼吸に合わせて

ハーブを奏でる

ハーブ演奏者：坂本 千歳

＞ハーブを始めたきっかけは、何だったのでしょうか。

坂本）まさにベッドサイドで患者様と共に居るといものからでした。私たちがやっているハーブレカリアという活動の主旨は病床にいる患者様にハーブをお聴かせする、利用者様の呼吸に合わせて私たちが弾き、利用者様が主導権を握っていて私たちがくっついていく寄り添うケアのプログラムで、音楽療法や治療ではないんです。

＞音楽療法や治療目的ではないんですね。そこは大きなポイントだったりしますよね。ということは、スピリチュアルケアだったりするんですか。

坂本）そうなんです。スピリチュアルケアであり、言葉を使わない版のケアです。なかなか日本にこのようなものはなく、アメリカで創られたプログラムを日本にもってきたもので、まだ12年くらいしか経っていないんです。無名のプログラムだったりするんです。あくまでも音楽療法とは違うという紹介を今はするしかない状態です。私たちの演奏をプロのオーケストラの方々が聴いた時、正しい弾き方をしてるとは限らない、華やかな演奏はしなくてハーブを祈りの一つの道具として用いているので、演奏やパフォーマンスとは違います。患者さんの呼吸が早ければそれに合わせて行るので、こちらが沈めていく、楽にしていけるようなことはしていません。

＞その方の内面の極限まで近づきケアを取る方法なんですよ。

坂本）敢えて知らない曲や日本に馴染みのない曲を用いています。要は思い出や記憶と結びつかないところなんです。自由なスピリチュアルな旅をしていただく。知っている曲ですと特定なことが思い出されますし、その時の感情が表面化されますよね。

これから旅立ちを迎える上でリラックスする癒しの効果はあると思います。医療の方でしたら効果がどれだけあるかを見るでしょうが、アメリカではより医療に近いものがありましてデータを取ったものはあります。その応用版で日本に広めた経緯があります。日本では、まだそのデータがありません。日が浅いことと、この修了生が日本では38名と少ない人数です。実際に活動しているのは、その半数とされています。

＞まだ歴史が浅いですがこれから発展していく印象を受けますが。昔から坂本さんはこのリラ・プレ

カリアをご存知だったのでしょうか。

坂本）実は全く知らなくて3年前に突然知ったんです。仕事を辞めて東京へ出てきて研修を受けて必死にやりました。ベトレヘムさんでよくボランティアとして引き受けてくれたと思って驚きました。スピリチュアケアをベトレヘムさんは取り組んでいらっしゃるからこそ院長先生や窪田部長の理解もありで、このことが出来たと思います。



＞坂本さんご自身もハーブの演奏をされていて心地よくなる瞬間があると思うのですが、どのようなときでしょうか。

坂本）呼吸をしている、演奏をしているその空間が10分くらいすると一つになり、一体感になって二人でセッションしている感じが生まれてくるんです。患者さんからフィードバックをいただくことは難しいのでご家族が時々同席して下さってコメントをいただきそれが有り難く、凄く励みになります。あとは、スタッフのナースの方たちが、“効果があったよ”“良かったよ”といった声の有難かったりします。遣り甲斐は、院長先生がもうそろそろという患者様がいて、ご家族もいるなかでよく私をそこへ入れて下さった、一緒にやって下さったなど。私は赤の他人ではないですか。普通、そのような状況では入れないと思うのですが、そこを一緒にやって下さっているのが凄く嬉しいですね。

＞その役割、位置付けを当院だけに留まらずこれから益々発展していくって欲しい私の思惑があります。

坂本）そうですね。最期の旅立ちのときのお祝い、かけがいのない時間は大事にしたいと思いますし、この病院ではこれらのことがとても大事にされているように、この病院はすごく雰囲気が良いと思います。

＞最後に、今後坂本さんが目指されているもの、考案されているものをお聞かせいただきたいのですが。

坂本）4月からこちらで始めたばかりなものですから、長い目で5年、10年と見ないと立派なことは言えないなど。奥は本当に深いですから。ここで学ばせていただいて深めていけないという思いがあります。まだ将来の展望は見えてなく、一回一回が夢中になって向き合っています。



2018 健康まつり 11・3



大崎佐智子(医療相談室)

朝晩の冷え込みを覚える季節となりましたが、今年のふれあい祭りは爽やかな秋晴れとなり、多くのご来場者で大盛況でした。ベトレヘム学園とナザレットの建物が完成してから初めてのふれあい祭りでしたが、予想を上回る人々の波に、この日を待っていて下さったんだと感慨深いものを感じました。

ベトレヘムの園病院は、毎年行っている血管年齢の検査や無料健康相談、昨年からオープンしたベトカフェ、そして年を追うごとに盛り上がりを見せるリハビリコーナーを突

施しました。血管年齢では検査結果に一喜一憂し、ベトカフェで美味しいコーヒーを飲み、今年から始まったリハビリの『ほぐしや』でマッサージを受けられている皆様の笑顔が幾重にも重なり、こちらも自然と笑顔になったそんな心温まる1日でした。このようなイベントでしかお会い出来ない方々もいらっしゃるの、懐かしい面影に、昔話の花が咲き乱れている方々も見受けられました。また来年も変わらぬ笑顔に会えますようにと祈りながら、実り多き季節を地域の皆様と共に迎えられることに感謝します。



ひんの話

その
43

市川 雅子(皮膚科医師)

食べて運動したらショックをおこす?!

長かった猛暑も終わり、やっと秋らしいさわやかな日が続くようになりました。

今回は、ちょっと特殊なじんましのひとつである「食物依存性運動誘発性アナフィラキシー」という病気のお話です。これはある食べ物を食べるだけでは症状はでないのに、食べてから運動するとじんましんや消化器症状、呼吸器症状などがでて、血圧が下がり、ショックを起こすことがある、というものです。実は運動だけでなく、痛み止め(アスピリンなど)を飲んでも誘発されます。原因食物の多くは小麦です(そのほかエビなどの甲殻類などでもあります)。しかし、患者さんの多くは普段はなんの異常も

なく小麦を使ったものを食べています。ただ、食べてからしばらくして運動したり(例えば体育の授業、あるいは電車に乗り遅れないように走ったりしただけで)、急にじんましんが出てきて、気分が悪くなり、おなかが痛くなったり吐いたり、呼吸が苦しくなり、そのうち血圧が下がり、意識が遠のく…、などの症状がでます。そのような症状がでたら、アナフィラキシーショックですので、すぐに救急車を呼んで下さい。この病気ではアレルギー検査をすると、小麦が陰性であっても小麦の成分のひとつであるω-5-グリアジンと調べると陽性になることが多いのです。しかし100%の陽性率ではありません。確定診断には、誘発テストが必要ですが、危険を伴いますので、設備の整った病院で入院して行ないます。



自衛消防訓練審査会

毎年恒例の清瀬市自衛消防訓練審査会(9/7)が清瀬コミュニティプラザひまわりにて開催されました。清瀬市の多くの事業所が参加をする中、我らがベトレハムの園病院も、看護部の精鋭2名が男女混合チームとして優勝めざし参加いたしました。

惜しくも敢闘賞受賞となりましたが、お二人は、日々の仕事を通して培われたチームワークを基に、一生懸命練習に励み、とても素晴らしい訓練成果を披露してくれました。日々の多忙な仕事の中、本当に熱心に練習されていた消防スペシャリストのお二人に大きな拍手を送りたいと思います。



お知らせ

ベタニアの家チャリティーコンサート

社会福祉法人 慈生会
～西日本豪雨災害救援募金&放課後等デイサービス エスポワールの支援～
平成30年12月11日(火) 開演:18:00(開場17:30)
HAPPY JAZZ TIME vol.2
出演:鈴木直樹&スウィングエース
場所:練馬文化センター 小ホール 全席自由 ¥3,000

インフルエンザ予防接種について

今年も平成30年10月中旬～平成31年2月末まで。接種希望の方は医事課窓口までお問い合わせください。
(問い合わせ先)
医事課 ☎042-491-2525



クリスマス会

平成30年12月18日(火)
ミサ14:30
キャンドルサービス16:20～



編集後記

飽きっぽい性格からか、モノを集める習慣がない私が、唯一大事にしているもの、それは「椅子」です。20年ほど前から数年に1脚ずつのペースで買い求め、現在10脚ほど、狭い我が家でせめぎ合っております。さながら満員電車の光景です。一つひとつは容姿(カタチ)も出身(製造国)もマチマチ。名の知れた椅子もありますが、そういうのに限って座り心地が「アレ?」だったり、ちょっと風変わりな形で

も、座ってみると「これ良いね!」だったり、人間と同じで前評判や見た目はあまりあてになりません。いよいよ置き場所も限られてきたので、仲間入り出来るのもあと1脚か2脚といったところになりました。注文する前に製造中止にならないことを祈りつつ、次はどんな「仲間」を迎えようか、と10脚の「先輩たち」と相談して過ごす秋の夜長です。皆さんも、コツコツと集めて大切にされているものはありますか?(M・K)